

メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第二1:1~4 「誇りとすること」

[1]「パウロ、シルワノ、テモテから、私たちの父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ」

この手紙はテサロニケ人への第一の手紙が書かれて、たぶん半年くらいの間にかかれたものと思われる。(AD51年頃) 執筆の理由は

①迫害のもとにある人々を励ますため。→1:4

②テサロニケ教会の中に「主の日がすでに来たかのように」言い出す者が現れて、人々を混乱させていたので、それを正すため。→2:2

③何も仕事をせず、締めりのない歩み方をしている人たちがいると聞いて、そういう人々に対して適切な指示を与えるため。→3:11

差出人は第一の手紙と同様パウロ、シルワノ、テモテであるが実際的な執筆者はパウロであろう。ここでも教会の存在の根拠は「父なる神および主イエス・キリストにある」とはっきりと言いつわられている。父なる神および主イエス・キリストにその存在の根拠を置かない教会は偽ものであり、神のみこころにかなわないものである。

[2]「父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように」

ここも第一の手紙と同様に冒頭のあいさつであり、祈りである。「恵みと平安」は父なる神と主イエス・キリストから来る。

「恵み」…神の過分の御恩寵。神がキリストによって私たちに罪から救い出してくださったことによる恵み。神の恵みこそが教会を根底で支えるものである。

「平安」…罪からの救いによって神の怒りを免れ、神との平和を持つことによる平安。

[3]「兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです」

ここでも第一の手紙と同様にテサロニケ人たちに対する感謝が述べられている。

「しなければなりません」「そうするのが当然なのです」とのことばは感謝が特権であるだけでなく、義務でもあることを示している。「なぜなら」とその理由が次に示される。

①テサロニケ教会の人々の信仰が目に見えて成長している。

かつてパウロは第一の手紙で彼らの「信仰の不足を補いたいと、昼も夜も熱心に祈っています」(3:10)と書き送った。そして、今、彼らの信仰が大いに成長していることがわかったのである。

②彼らすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっている。

これも I テサロニケ3:12で祈られているパウロの祈りに対する現実的な答えである。

このようにテサロニケ人たちの信仰と愛が成長し、増し加わっている現実に接して、パウロは神に感謝し、しかもそうするのが当然なのだと強調しているのである。

[4]「それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と困難に耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています」

今、テサロニケ教会の人々はさまざまな迫害と困難の中にある。迫害とは信仰のゆえに害を加えられ、苦しめられること。患難とはクリスチャンが信仰を持って生きていく時に会うあらゆる試みや困難のこと。しかし、彼らはそれに耐えながら神への従順と信仰とを保ち続けている。これこそ福音を宣べ伝えたパウロたちの誇りなのである。

私たちも伝えられたイエス・キリストの福音を信じ、救われた者として、どのような苦しみ、困難がやって来ようとも、神への従順と信仰とを保って、お互いに愛をもって助け合い、支え合い、祈り合いつつ、信仰生活に励む者になりたい。

それこそ、私たちに福音を宣べ伝えた人々の誇りとなり、また、主イエス・キリストが私たちを誇りとしてくださるであらう。

→ I テサロニケ2:19~20、ピリピ1:27~30